

5－(2) 美保湾カタクチイワシ資源調査

田中 秀一

目的

近年の鳥取県沿岸における漁獲対象魚種を見ると、浮魚類の漁獲金額が上位を占めており、漁業経営上の重要度は高い。漁獲金額上位の魚種のうち、カタクチイワシはシラスの生食や田作り、煮干しといった乾物などで利用され、地域の食材として親しまれている。また本県沿岸のカタクチイワシについては大半が美保湾で漁獲されており、その回遊ルートの一部には中海が含まれることを言及する漁業者が存在するなど、境港では地域に根ざした魚種である。

しかしながら、カタクチイワシはその資源変動が大きく、美保湾における知見も限られる。そこで、本調査ではカタクチイワシの資源動態を把握・予測するための基礎資料を得ることを目的として美保湾におけるシラス漁の実態把握調査を実施した。

方法

鳥取県漁業協同組合から送られてくる漁獲統計資料より、カタクチイワシを「シラス銘柄」、「カタクチイワシ銘柄」に分けて集計し、2010年以降の水揚量の変化を整理した。

2018年4月よりすくい網および船曳網を営む漁業者に標本船を依頼し、漁場と漁獲量を把握するとともに、適宜サンプルとして水揚げされたシラスを一部譲渡していただいたウルメイワシ、マイワシ、カタクチイワシに分け、体長を測定した。

結果

漁獲統計資料を集計した結果、2018年にカタクチイワシを漁獲しているのは、78%が鳥取県漁協境港支所(11ヶ統)、次いで同淀江支所が14%(2ヶ統)、同御来屋支所が8%(1ヶ統)となった。境港支所における漁獲動向を見ると、2011年に300トンを超える水揚げを記録して以降は100～200トン前後で推移している。一方、漁獲金額については2013年に期間における最低を記録したが、その後上昇し、2018年には1億円を超えた(図1)。

月別水揚量をみると、5～7月の夏季と11月の晩秋の2回ピークがあることが分かる。船曳網は操業許可期間が設けられており、夏季の操業はない

ため、夏季はすくい網によるもので晩秋は漁獲能力の高い船曳網によるものである(図1、表1)。

標本船野帳より、すくい網の漁獲状況を見ると、シラス銘柄とカエリ銘柄で漁場が異なることが示唆された。すなわち、シラス銘柄は境水道の河口部に近い、境港一文字防波堤周辺であることが多いのに対して、カエリ銘柄は米子市富益町の沖合が漁場となっていた(図3)。ただし、現時点ではデータ数が少なく、美保湾においてカタクチイワシが成長段階により生息場所を使い分けているのか等について言及は出来ず、移動・分布の動向については、今後も調査を継続して検討する必要がある。

夏季に当たる5～7月のサンプルからは、ウルメイワシ、マイワシ、カタクチイワシの3種が確認された(図4)。一方、秋季以降のサンプルからカタクチイワシのみ確認された。これはウルメイワシとマイワシの産卵期が鳥取県沿岸では春季のみである一方、カタクチイワシの主産卵期が春季と秋季の2回あることを反映していると考えられた。

夏季の体長組成を見てみると、カタクチイワシは期間を通してシラス銘柄を獲り続けていたことが分かる。体長が時系列にそって成長している様子は確認できず、この期間加入が続いていたものと考えられる。その他のイワシ類を見ると、ウルメイワシは混獲されていたものの比較的漁期の早い段階で漁場から移動したようである。一方、マイワシについては全期間で出現している。ただし、漁期後半にはその数が減少しており、それぞれの種ごとに美保湾の利用期間の違いが見られた。

次に晩秋～冬期の10月以降の体長組成をみると(図5)、期間を通して春季より大きなカエリ銘柄サイズを漁獲していた。過去の漁獲統計からは当該期間であってもシラス銘柄が多獲されており、今年のような状況は例外的である可能性が考えられる。漁業者からの聞き取り調査によれば、漁期始めは地蔵埼沖で群れが集まっていたが、その後、沿岸の米子市富益町沖から和田町沖へ漁場が移動したようである。本年の調査では、体長組成を見ても、はっきりとした成長を確認することができなかった。今後はサンプリング頻度を高め、美保湾における成長についても把握する必要がある。

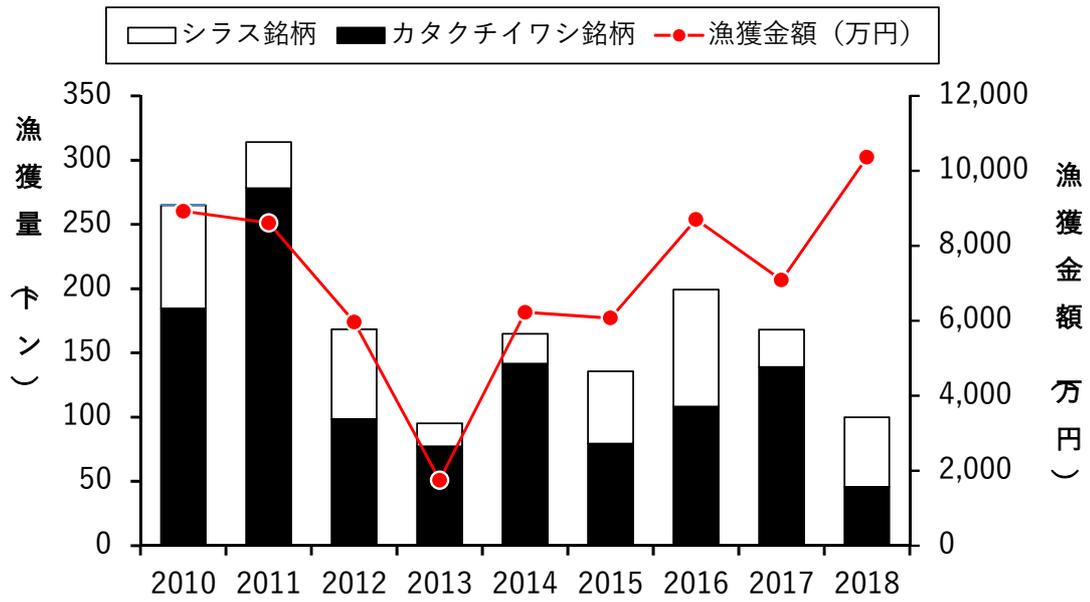


図1. 境港支所におけるカタクチイワシの漁獲量の推移

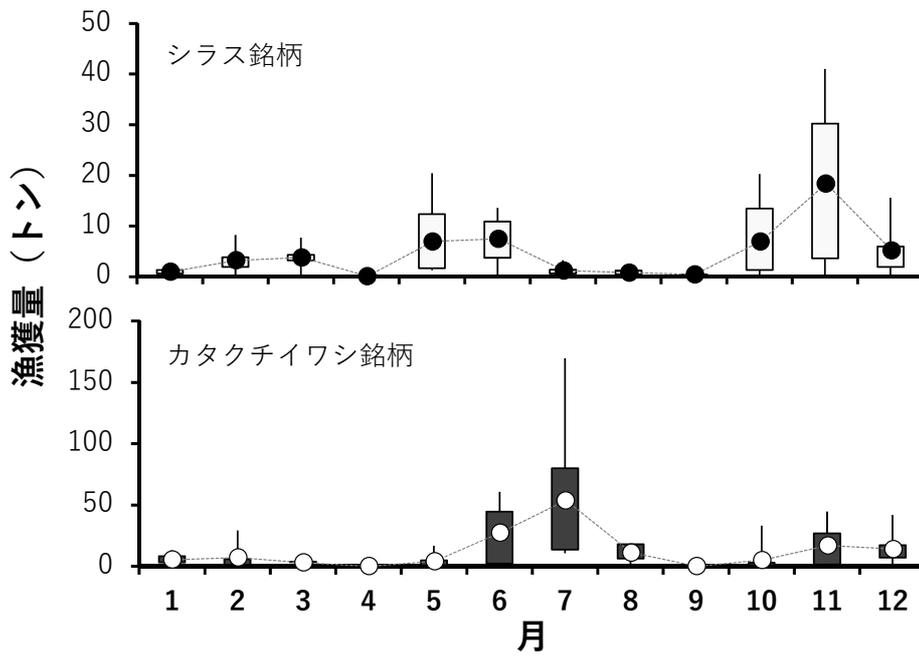


図2. 境港支所におけるカタクチイワシの月別銘柄別漁獲量 (2010年～2018年)

表1 支所別経営体数と漁法別許可期間

漁法	経営体数			漁期											
	境港	淀江	御来屋	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
二艘曳	1														
一艘曳	2	1													
すくい網	8	1	1												

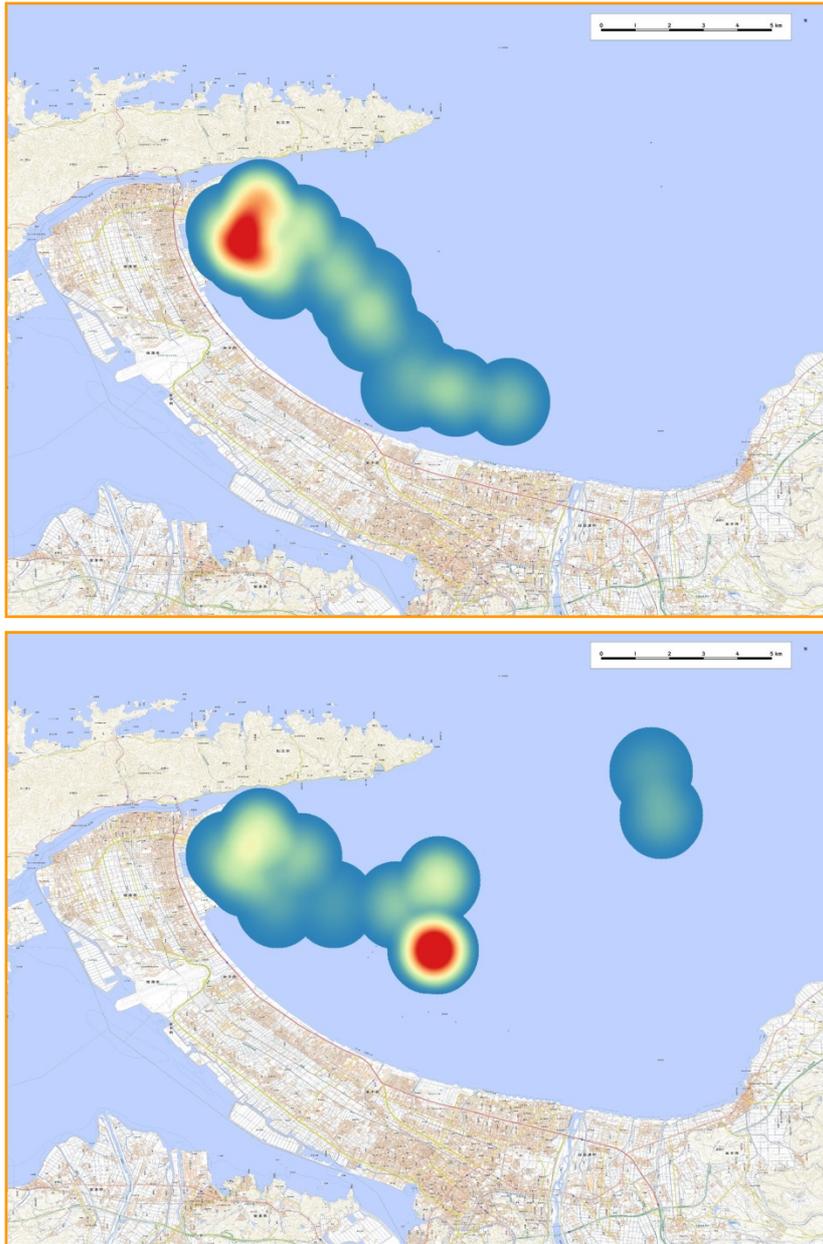


図3. すくい網による主要漁場
 (上：シラス銘柄, 下：カエリ銘柄. 赤色の部分が漁獲の多い場所を示す)

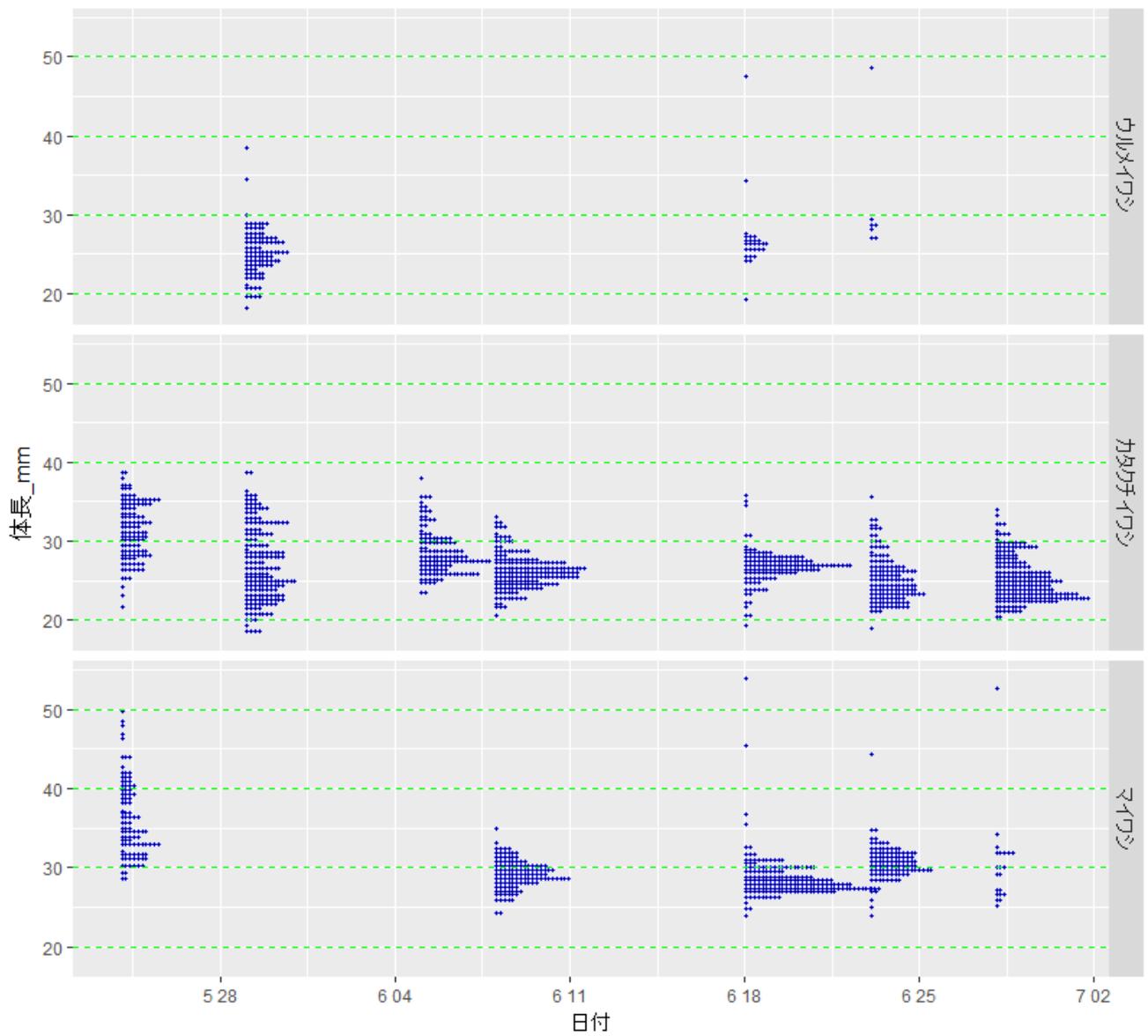


図4. 夏季にすくい網で漁獲されたイワシ類の体長組成

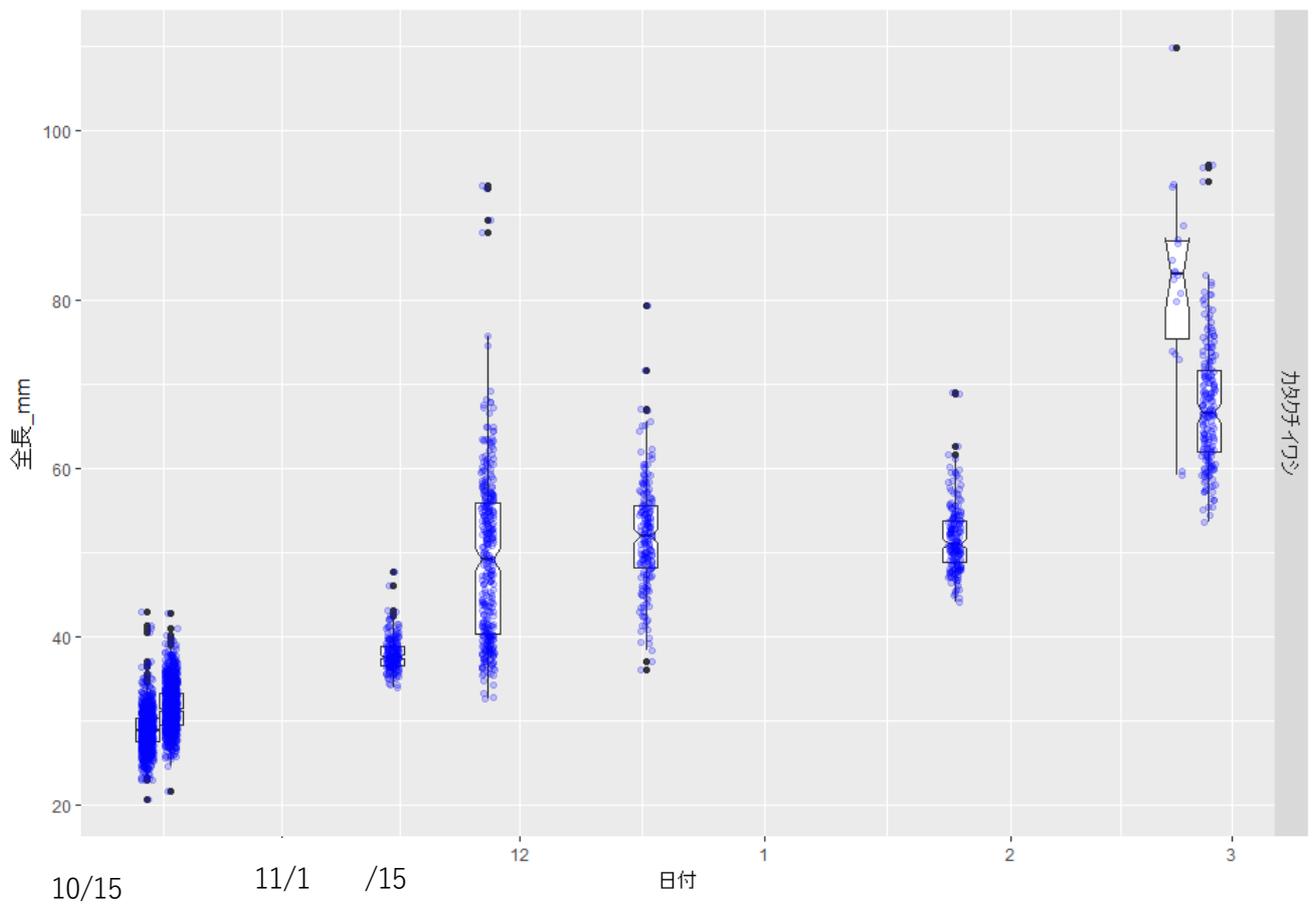


図5. 船曳網により漁獲されたカタクチイワシの体長組成